

震災後の今の暗い面

2011年 3月11日に東日本大震災が起きた。

震源域は岩手県～茨城県沖の南北500kmと東西200kmの10万平方kmにまで渡った。

	東日本大震災	阪神淡路大震災
死亡者数	1万5869人（宮城 6割）	6340人
行方不明者数	2847人（宮城 7割）	3人
漁船被害	2万2000隻以上	40隻
漁港被害	300港	17港
農地	2万3600ha	214ha
被害額	16兆～25兆円	10兆円

上の東日本大震災と阪神淡路大震災との比較を見ると阪神淡路大震災2～3倍も被害が大きい事が分かる。

福島県では、福島第一原発では水素爆発を起こし放射能（原子核が崩壊して放射線を出す能力の事）が漏れるという大惨事が起きた。この福島第一原発の事故は旧ソ連（現在のウクライナ）のチェルノブイリ原子力発電所の原発事故に相当する事故が起きた。津波では、防波堤を超える津波がきて一瞬で町などが津波にのみこまれてしまい大きな被害が起きた。

では今の日本は、どうなっているのでしょうか？

どんな暗い面があるのでしょうか？

今の日本に未来はあるのでしょうか？



はじめに地震の範囲が大きく復興するにしても、時間がかかるという事。

がれきなどの取り除きの作業をするのにたくさんの時間を費やし、作業人数が人数不足で人手が足りず時間が大幅にかかる。

今でも東北地方の海岸沿いでは、電車は走っておらず、バスが走っており海沿いの電車で通勤していた人は、時間が大幅にかかって時間通りに通勤できない人が、たくさんでているので通勤ラッシュの渋滞にはまってしまうと、もう会社に遅刻し

てしまうことが数多くある。

福島第一原発事故により放射能がでて福島県の多くの農村と漁業に被害をあた

え以前まで農村には、食品の出荷の制限が出されたり、食品を出荷してお店に並べられてもお客さんのほうから軽視されてしまいあまり福島県産のものが、あまり買われなくなり福島県産のものがたくさん売れ残ってしまうということがあった。

漁業では、海の水が汚染され潮干狩りをしにくる客も減ってしまいあまり魚介類が食べるのが、不安になるということが一時期あった。



福島原子力発電所の1号機から3号機までを自動停止したが、自動停止しても冷却を続けなければならなかった。しかし、今ではその教訓をいかさずに活動を停止していた原子力発電所の活動をはじめてきているものも少しずつでてきている。しかも、今活動中の浜岡原子力発電所は南海トラフ地震がくると予想されていて

いつきてもおかしくないのに、まだ活動している。南海トラフ地震がおきたら、また東日本大震災と同じようなことがおこるだろうというのにまだ活動している。

東日本大震災のがれきの量はもう2年以上たっているのに2300万トンあるうちの5%の11万5000トンしか取り除かれていない。

2300万トンあるうちの岩手県と宮城県だけで2000万トンを越し石巻市だけでも685万トンものがれきがあり、まだいっこうにがれきの処理が残っている。すべて取り除くのに23年かかり後世までも残ってしまう可能性があるという。そのうちの400万トンはほかの地方に頼る必要があり、ほかの県の手が必要になり、ほかの県がやらないと全然作業が進まないという状態にある。400万トン以外を東北地方だけでやるというのも大変だ。

——復興のためには、何が必要か。

復興のためには、1人1人が募金をしてたくさんのがれきの山を取り除いていくことが必要だと思う。